

提案「夏の学校」 組込次郎

組込みシステム・ソフト・ハードに関する、(大学・大学院を含めた)学校の教育・研究の質の底上げの必要性が、益々多方面で叫ばれるようになってきたように思われる。

ここで、その詳細について触れる気は無い。それは他の人に任せよう。

それよりも、何か提案を!と考えたとき、まっさきに思いつくのは、やはり「夏の学校」である。"やはり"というのは、SWESTのような夏合宿型の取り組みとしては、よくある取り組みと思えるからだ。

「夏の学校」とは何だろうか。

一言でいうと、通常の学校の枠組を越えて学生が集まる、学校形態の夏季合宿である。

「夏の学校」では...

- (1) 自分の大学には、それを専門とする人がいなくて詳細な話が聞けない専門分野について、それを専門とする大学の先生や企業の人に来て、集中講義をしてくれる。
- (2) そのときどきのトピックについても、講演が聞ける。
- (3) 夜には、修士1年目の集まりとか、テーマ毎の集まりが開催される。
- (4) 毎年、1週間程度、(冬はスキー場になるような山奥の)合宿所で、開催される。
- (5) 人によっては、今いる大学の大学院で研究するより、夏の学校で出会った、某教授の大学院の方が面白いとあって、大学を移ったりする。
- (6) 組込みだけでやらなくてもいいかもしれない。(ソフト全般とか)
- (7) 企業人や大学の先生が、子連れで参加するセッションがあってもいいかもしれない。
- (8) また、中高校生セッションなどがあっても、面白いかもしれない。
- (9) 英語のみでの議論が許されるようなセッションがあっても面白いかもしれない。

以上、いろいろ矛盾はあるかもしれないが、発想として聞いて頂ければ幸いである。

なお、上記で、(1)~(5)は、実際に、私が大学院にいたときに、私が学ぶ分野で経験した「夏の学校」そのものであり、実際に、そういうことが行なわれている学部があるということに注意してほしい。

なお、その「夏の学校」では、各大学の大学院学生により持ち回りで運営されていた。

組込み系の場合、教育対象を企業人にしてもいいかもしれないが、それをすると、セミナー開催を生業としている幾つか企業がやっているセミナーとあまり変わらなくなってしまうかもしれない。また、学生だけの運営というのも難しいかもしれない。

その他、いろいろ、工夫の必要があるかもしれないが、それはそれで、楽しめればと思う。

それよりも、こういった場を作ることにより、なんらかのブレークスルーが得られないかと考える次第である。